

第2回ロードマップ検討会における主な意見

■ロードマップに盛り込む内容(コンセプト、強み、具体的な取組)

【レガシープラン】

- ・ 万博をイベントとして終結させず、あくまできっかけ作りとし、京都市や大阪市などの都市部とのつながりや世界とのつながりに結びつけるべき。レガシープランを並行して考えていくことが大切。
- ・ ロードマップ案は2027年までだが、行政だけでなく業界団体の様々な意見も交え、民のレベルで盛り上がるレガシープランを作り、各者が本業で関わっていくような組み立てが必要。
- ・ 18歳以下(次の世代)は、実際にレガシーを受け継ぎ、体現していく世代になるため、「ICT×地方創生甲子園」「丹後万博」だけでなく、もっと高校生が入っていける余地を広げる必要がある。
- ・ 京丹後市への来訪と併せて、移住、二地域居住というキーワード、都会の人がもう一つのふるさととして、このまちを考えていくというところに大事なブレイクスルー(突破口を見つけて前進)があるのでは。

【KPIについて】

- ・ 観光入れ込み客数の KPI だけでなく、滞在型の宿泊数を伸ばしていくとか、富裕層に来ていただいて観光の経済効果を高めていくことにしないとイケない。
- ・ 万博の年だから(母数が多いから)観光客が増えるのではなく、他との競争の中で京丹後を選んで来てもらうことが必要で、単に数値目標だけのKPIではなく、観光の質を問うようなKPIも必要。

【長寿】

- ・ 長寿とU-18(若者)が思い切り活躍できるまちといった両極端なコントラストが打ち出したらどうか。
- ・ 2025年に長寿サミットを開催し、アカデミア・インダストリー・ソーシャル部門において、この地域が世界と一緒にやっていくということをアピールしたい。
- ・ 海外の方にはヘルシーリゾートツアーを提供するとともに、市民公開講座を開催するなど、キーとなるホテルや公民館などをつないだ長期プログラムとしたい。ホテルのキャパシティや交通の便など、これから細かいことを詰めていかなければならない。
- ・ 長寿サミットの中で、京丹後宣言文のようなものを出し、参加者が調印することはできないか。
- ・ 京丹後市ボランティア連絡会の「よさこい」チームで、万博を機に「長寿よさこい」を作る動きがある。
- ・ 長寿食という言葉が世界向けには馴染まないのであれば、「いのち輝く未来食」のようなネーミングでブランディングし、京都府の認証制度に登録して、打ち出していくのはどうか。
- ・ 長寿食に丹後ばら寿司やフルーツを絡ませ「京丹後オリジナル食」を完成させる。また冷凍すれば輸出も可能になるなど、夢が広がる。

【丹後万博】

- ・ 丹後万博は京丹後市の魅力やSDGsの在り方を考える良い機会。世界の高校生や子ども達を翌年に招待できるような動きになり、近隣の事業者も含めて企画できれば良い。宮津・与謝野・伊根まで広げても丹後万博という名前で開催できるし、さらには外国人も含めて、一度関わりを持つと全員が関わり続けられるようなイベントになれば良い。

【自然・環境】

- ・ 海から流れてくるごみや自分達の生活の中でプラスチックごみを減らそうという活動も世界に向けて発信できる。今の若い子は積極的に浜の清掃活動にも参加しており、どの世代も元気で活発に活動している地域だと表現できるし、世界中から色々な方に来ていただけるきっかけになるのでは。
- ・ 海の京都DMOの新しい長期ビジョンの計画では、交流と持続可能性というキーワードで議論しており、宮津、伊根を含めた広域で新しい観光を考えられるようなきっかけとしたい。

【文化・芸術】

- ・ 市が文化芸術振興計画を策定しているが、「文化・芸術」が万博の流れの中で、どのようなものを育み、繋ぎ、活かしていくのか定義付ける必要がある。「文化・芸術」はSDGsの17の目標に入っていないが、目標達成のベースとなるものという観点で、ロードマップを検討していくのが良いと思う。

【その他】

- ・ 障害者たちの万博への関わり方について考えていく必要があり、これからの多文化共生を考えていくと、アクセシビリティもロードマップに盛り込むべき。
- ・ 万博のテーマ「いのち」について、日本刀の美しさなど精神的な側面にフォーカスを当てながら表現できるのではないかと。刀を作っている人と対話ができるということ自体が本市の資源ではないかと。

■(参考)情報提供

【京都府】

- ・ 500日前イベントを、12月1日に京都市の「みやこめっせ」で実施し、文化・環境、産業、観光の分野ですでに活躍されている方々によるトークセッションなどにより、一般の方も含めて機運醸していく。
- ・ 大阪・関西万博京都推進委員会では、万博に向けた取組の創出を加速化するため、万博期間中に実施する基本構想の趣旨に合致した取組を認証する制度を、10月に創設した。募集期間は年末までで令和6年3月ごろに認証予定。今後、専用のポータルサイトを作成し発信していく予定。

【近畿運輸局の動き】

- ・ 近畿地方整備局近畿運輸局の関西全体パビリオン化構想では、人材、情報、交通、これらの視点で上手く地域をつなげていく。国は国土計画を作っている中で、キーワードがシームレスになっており、交通においても情報においても、地域がシームレスにつながるということが重要。

【兵庫県の取組】

- ・ 兵庫県の取組のポイントは「Our」という言葉がキーワード。テーマを「Our Field、Our SDGs」としており、大阪・関西万博を大きなイベントだと考えるのではなく、自分達の地域で、自分たちで出来ることをするのが大事で、それがつながっていくことで人類の将来に貢献するといった考え方。
- ・ 兵庫県の特徴は、世界初や他にはないという点を前面に出しつつ、あくまでもSDGsの達成に向けて各地域が取り組んでいるプログラムのアピールを重視している。